

## 本時のねらい

自動車の仕事について考え、「じどう車ずかん」をつくる学習の見通しを持つことができる。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

いろいろな自動車を、シンキングツール（Yチャート）を使って、大まかな仕事の種類で分類する活動を通して、それぞれの自動車の仕事について考える機会を持ち、今後の調べ学習の見通しをもつことをねらいとした。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・Chromebook ・プロジェクター ・授業支援ソフト（ロイロノート）

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「じどう車くらべ」の復習をする。（どんな自動車、しごと、つくり）</li> <li>・「じどう車くらべ」で出てきた自動車以外で、知っている自動車を出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が発表した自動車を授業者がロイロノートのカードに書き込んでいく。また、その様子をプロジェクターで投影し、児童にも見せる。</li> </ul>
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○シンキングツール（Yチャート）を使い、児童から出された自動車について、「人をのせてはこぶしごと」「にもつをはこぶしごと」「そのほかのしごと」の三つに分類する。</li> <li>・分類したものをロイロノート上の提出箱に提出する。</li> <li>○分類した理由について発表する。</li> <li>・複数の児童の意見を並べて比較し、分類が異なっているところを中心に他の児童と意見を出し合い、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の意見を打ち込んだカードをツールの切り替え機能を使い、Yチャートに切り替え、新たな視点を追加したものを児童の端末に一斉に送る。</li> <li>・教員用端末であらかじめ提出箱を作成しておく。</li> <li>・発表者の画面をプロジェクターで投影する。</li> <li>・児童が自分の手元でも見られるように、発表者のカードを児童の端末に配信し、共有する。</li> <li>・ロイロノートの比較機能を使い、複数の児童の提出物を並べて見られるようにする。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これからどんな自動車のことについて調べるか、出し合った意見も参考に考える。</li> <li>○次時の予告をする（調べたい自動車のしごとやつくりを調べていくこと。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の調べたい自動車のテキストを選んで提出用のカードに移し、それをロイロノートの提出箱に送るよう指示する。</li> </ul>

## 1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：Yチャートで様々な自動車を仕事別に分類する場面



写真2：児童の意見を並べて比較している場面（児童の端末にも画面を配信している）

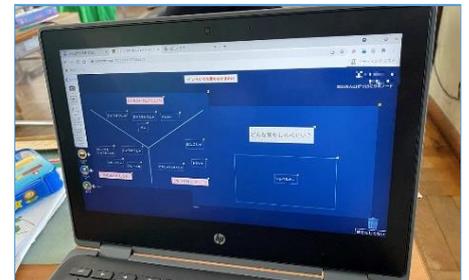


写真3：分類したものをもとに自分の調べたい自動車を考える場面

## 児童生徒の反応や変容

- ・シンキングツールを使って仕事の種類別に自動車を分類する活動では、分け方の視点を与えたことにより、分類しやすくなるだけでなく、その理由まで考えることができていた。具体的には、「バトカー」を、「人をのせてはこぶしごと」に分けている児童と「そのほかのしごと」に分けている児童がいた際、「人を乗せる仕事」に分類した児童は、「悪いことをした人を乗せる車だから」、「その他の仕事」に分類した児童は、「パトロールをしている車だから」というように、自分なりの理由までしっかりと考えることができていた。
- ・いろんな意見を聞いたうえで、自分の調べたい自動車を一つ選ぶという活動であったが、他の児童のたくさんの意見を聞くことで、いろんな自動車の仕事に興味を持つことができた児童もいた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・1年生はまだ文字の入力に時間がかかること、授業のめあてが文字の入力ではないことなどを考慮し、本時では、文字入力を児童の意見を聞いて授業者が打ち込んでいく形で進めた。その結果、仕事を分類する活動に時間をかけることができ、理由などを考える時間も十分確保することができた。